



特集

特 集

1 水月湖年縞

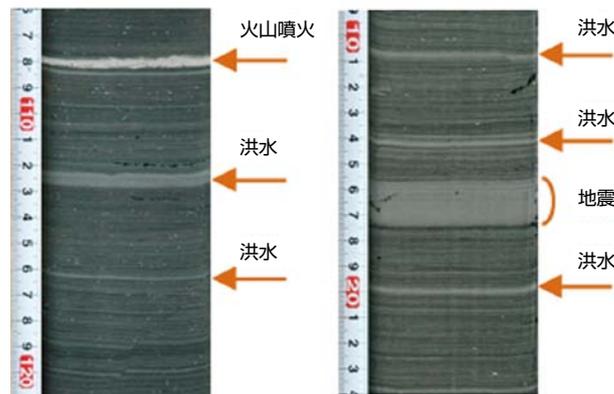
三方五湖は若狭湾国定公園の中にある三方湖、水月湖、菅湖、久々子湖、日向湖からなる5つの湖の総称で、国の名勝に指定されています。また、2005年には、国際的に重要な湿地として、ラムサール条約湿地に登録されています。

その三方五湖の5つの湖の中で、最も大きい湖である水月湖。この湖の湖底には、およそ7万年の歳月をかけて積み重なった「年縞（ねんこう）」と呼ばれる縞模様が形成されています。

■縞模様の秘密

この縞模様は、春から秋にかけては土やプランクトンの死骸などの有機物、晩秋から冬にかけては湖水から析出した鉄分や大陸の黄砂などの鉱物質が堆積します。有機物を多く含む層は暗い色に、鉱物質を多く含む層は明るい色となり、暗い色の層と明るい色の層の1対が1年をかけ縞模様となります。

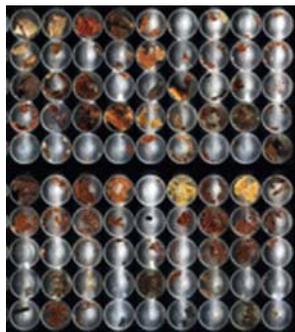
水月湖は、①直接流れ込む大きな河川がなく水深も深い ②山々に囲まれているため、波が立ちにくく、かつ水深が深いことから湖底に酸素がないため生物が生息しない ③周辺の断層の影響で沈降し続けているため湖が埋まらない などの条件が揃い、1年間に平均0.7ミリ、約45mにわたり縞模様が堆積しています。



水月湖の年縞
(火山噴火や洪水の跡が残っている)

■年縞が教えてくれること

1年単位で年代を特定できる年縞には、木の葉や花粉、火山灰や黄砂などが含まれています。木の葉や花粉からは、湖周辺に生息していた植物の種類や当時の気候、環境が分かります。植物の種類の変り変わりを調べることで、気候や環境の変化を知ることができます。また、鹿児島県や遠く朝鮮半島の火山灰が年縞の中にあり、噴火の年代を特定することができました。その他、堆積状況の変化などから地震や洪水の履歴が分かり、今後、研究が進むことで将来の災害予測への活用が期待されます。



水月湖年縞に含まれていた葉の化石

■世界標準のものさし

今から5万年前までの時間を図る手段として、世界でもっとも広く用いられているのが「放射性炭素年代測定」という方法です。これは、動植物に含まれる「炭素14」という物質を利用した年代測定ですが、炭素14の量は年代によって一定ではないため、誤差を較正する必要があります。この較正曲線「IntCal 13」に水月湖年縞の多くのデータが使われており、考古学や地質学における「世界標準のものさし」として年代測定の精度を、従来より飛躍的に高めました。

■水月湖年縞国際シンポジウム

昨年9月、「水月湖年縞」の保全や世界的な価値についての再認識を図るために国際シンポジウムを開催しました。

このシンポジウムでは、年縞の名付け親である安田喜憲氏、英国オックスフォード大学のヴィクトリア・スマイス准教授の講演に続き、県文化顧問の山根一眞氏をコーディネーターに、安田氏、立命館大学の中川毅教授、東京学芸大学の小泉武栄名誉教授、県里山里海湖研究所の北川淳子主任研究員を交えたパネルディスカッションが行われました。



水月湖年縞国際シンポジウムの様子（平成29年9月17日）

■年縞博物館の開館に向けて

福井県の豊かな自然と里山里海湖が育んだ水月湖の年縞を教育や観光に活用するため、若狭町の三方湖畔において年縞博物館の整備を進めており、今年9月に開館の予定です。この施設では実物の水月湖年縞（7万年分、45m）を展示しそのスケール感を体感していただくとともに、この施設を拠点に年縞の研究を一層進め、「水月湖年縞」の価値を世界に発信していきたいと考えています。



年縞博物館【イメージ】

2 福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会に向けた環境美化の取組み

県では、平成30年に行われる「福井しあわせ元気国体・障スポ」の開催に向け、きれいな福井県を目指して、「スポーツGOMI拾い大会」の開催など様々な取組みを行っています。

(1) スポーツGOMI拾い大会の開催

「スポーツGOMI拾い大会」とは、チームで力を合わせ、制限時間内に決められたエリア内でゴミを拾い、その質と量をポイントで競い合う、子どもから大人まで年齢を問わず参加できる競技です。



福井大会の参加者のみなさま

平成29年度は平成30年度開催の決勝戦の予選会として、国体のプレ大会に合わせて県内6か所で開催しました。各大会の上位3チームが決勝戦へ進みます。

平成29年度実施一覧

	開催日	開催地区	開催場所
第1回	平成29年 5月27日	二州地区	敦賀市運動公園周辺
第2回	平成29年 6月17日	若狭地区	高浜町 若宮海水浴場
第3回	平成29年 7月17日	丹南地区	鯖江市総合体育館周辺
第4回	平成29年 8月 5日	奥越地区	大野市エキサイト広場周辺
第5回	平成29年 9月30日	坂井地区	丸岡スポーツランド周辺
第6回	平成29年11月12日	福井地区	福井県産業会館周辺

各回とも、「ゴミ拾いはスポーツだ!」のスタート発声とともに競技を開始し、参加者は空き缶やたばこの吸い殻などを分別しながら拾いました。

参加チームは、家族、職場の同僚、学校の友達と様々で、幅広い年齢層の方々が楽しくゴミ拾いをしていました。過去大会に続いて参加される方や外国人の参加者もあり、大会の広がりを見せています。



ゴミ拾いの様子



はぴりゅう・はなりゅうがPR

(2) SNSを活用したゴミ拾い活動の推進

県では、日常生活の中で楽しくできる気軽なゴミ拾い意識の向上を図るため、普段評価されることの少ない県民一人ひとりの自主的なゴミ拾い活動を、SNSを活用して情報共有することで見える化したホームページ「クリーンアップふくい～拾ってみねの、ふくいのゴミ～」を平成26年9月から運用しています。

このホームページではゴミ拾いアプリ「ピリカ」を通じて報告のあった清掃活動のうち、県内の清掃活動のみを抽出し、活動者数や拾われたゴミの数、活動状況をリアルタイムで表示しています。

平成26年4月から平成30年2月までの間、県内約96,000人により2,300万個ものゴミが拾われています。

このホームページを通して、県民の手で福井がきれいになる様子を発信し、国体までに、どこに行ってもゴミひとつないきれいな福井県を目指して、ゴミ拾いという社会貢献のつながりの輪を広め、いつでもどこでもできる気軽なゴミ拾いの定着を図っていきます。



「クリーンアップふくい～拾ってみねの、ふくいのゴミ～」ホームページ画面

ゴミ拾いアプリ「ピリカ」とは

「ピリカ」とは、ゴミを拾って、写真に撮り、スマホやパソコンで「ピリカ」に送るだけで、世界中にゴミ拾いの様子を発信できるサービスです。平成30年2月現在、「ピリカ」を通じて世界79ヶ国で約7,500万個ものゴミが拾われています。



上記のQRコードをアクセスし、「ピリカ」をダウンロードしてください。



企業はパソコンから 個人はスマホから

(3) クリーンアップふくい大作戦の実施

県では、地域の環境保全に関する県民意識の啓発を図ることを目的として、平成4年度から、県内一斉に住民が主体となって美化活動を行う「クリーンアップふくい大作戦」を実施しています。

平成17年度からは、県内全域にまたがる環境美化活動の強化週間を季節ごとに年4回設け、市町は自治会などと一体となって地域ぐるみの美化活動を実施しています。

平成28年度から、国体開催に向け、国体競技会場や観光地等で清掃活動呼びかけるポスターを毎年作成しています。



クリーンアップふくい大作戦ポスター

3 ものを大切にする社会づくり啓発イベント

県民一人ひとりが「ものを長く使う」、「壊れたものは修理して再利用する」など、大切な資源を有効活用することにより、「ものを大切にする」ライフスタイルの定着を進めています。

より幅広い県民への周知のため、平成29年9月に福井駅西口ハピテラスにおいて「わくわくもったいないひろば」を、11月に敦賀市において「子育て用品リユース市」を開催しました。

1 「わくわくもったいないひろば」の開催

「わくわくもったいないひろば」は、総合的なリユースイベントとして、普段は個別に開催している古本市とおもちゃの病院、まちの修理屋さんを同時に開催しました。

休日に人通りの多い福井駅西口で行ったことにより、これまでリユースイベントへの参加が少なかった学生や家族連れなど延べ約1,500名の方にご来場いただき、良いものを長く使う「リサイクル文化」の定着を図ることができました。



多くの人が参加したハピテラス

(1) 大古本市

本を通して良いものを長く使うことへの意識を高めていただくため、県内4か所の古本回収ボックスを通じて、県民の皆様からお譲りいただいた古本を販売する「まごころ古本市」を開催しています。古本回収ボックスは、県庁1階エレベーターホール、福井駅西口地下駐車場、敦賀合同庁舎、若狭合同庁舎に設置しています。

「わくわくもったいないひろば」では、民間団体や古書店合計6店が古本を提供しました。定期的に開催している通常の古本市よりも多い6,500冊の本を用意し、本の種類も、文庫本、参考書、雑誌などに加え、家族連れの方に利用していただけるよう絵本や児童書も取りそろえ、規模等を拡大して開催しました。多くの県民の皆様にご利用いただき、1,114冊の古本をリサイクルすることができました。

(2) おもちゃの病院

子どもたちに、おもちゃの修理を通して、ものを大切にする気持ちを伝えるため、地域のイベントや人の集まる公共施設などで、定期的に「おもちゃ病院」を開催しています。

「おもちゃ病院」では、修理技術者養成講座を受講された「おもちゃドクター」が、おもちゃが壊れた原因を特定し、新しい部品に取り換えるなどして修理を行っています。子どもたちに直したおもちゃを返却する際に、どうして壊れたのか、これからおもちゃで遊ぶときに気を付けることなども直接伝えています。

「わくわくもったいないひろば」では、音の出る絵本や電車・車のおもちゃなどが持ち込まれ、ふくいおもちゃ病院のおもちゃドクターが無料で修理を行いました。修理されたおもちゃを受け取った子どもたちは、早速、おもちゃを動かしてみるなど、一層、愛着が増したようです。



多くの本を提供した大古本市



壊れたおもちゃの受付

(3) まちの修理屋さん

これまで使えなくなったらごみとして捨てていたものでも、修理すればまだまだ使えるものもあります。県では、修理してものを使うことの大切さを知ってもらおうと、壊れた時計や家具等の修理を請け負う「まちの修理屋さん」をホームページで紹介しています。

実際に「まちの修理屋さん」の技術を体験してもらうため、イベント時に日常のお手入れのコツ紹介などを行っていただいています。平成29年5月にアオッサで開催された「いきいき消費者フェア」では、和服の修理屋さんが、着物の手入れ方法やリフォームについて相談に応じました。

「わくわくもったいないひろば」では、靴と自転車の修理屋さんが、お手入れのコツの実演をしました。靴が雨に濡れた場合の乾かし方や、快適に自転車に乗れるようタイヤの空気圧を調整することなどを参加者に教えていました。



靴の磨き方講座



自転車のお手入れ講座

2 子育て用品リユース市の開催

平成29年11月に、子育て世代の「ものを大切にする」心を育むため、不要になった子育て用品を回収し、必要な方にお譲りする「子育て用品リユース市」をつるが環境フェアの会場である、きらめきみなと館で開催しました。

子どもの成長に伴って使用期間が限られる、洋服、おもちゃ、育児用品、絵本などを、敦賀市内の保育園、子育て支援センター、児童館合計16施設にご協力いただき、約3,000点回収しました。

回収した子育て用品を、子ども服のサイズや、マタニティ用品などの種類ごとに区分し、参加者に無料で提供しました。両親、祖父母と子どもたちが、それぞれの年齢に合わせた洋服や、おもちゃを選ぶ姿が見られました。約500名にご来場いただき、2,161点の子育て用品をリユースすることができました。



子育て用品リユース市



回収した子ども服



回収したおもちゃ